59 磐椅神社彩色三十六歌仙（西峯）

磐椅神社に奉納されている三十六歌仙の額です。三十六歌仙とは平安時代の中期に藤原公任が『万葉集』以後の歌人36人を選び、数首ずつ歌をあげて選集を編んだものです。ここに掲げられた額は、猪苗代の人々が奉納したもので、一枚一枚の裏に奉納者の名前が書かれています。表の絵の作者は、若松の絵師大礒金三郎と明記されていて、この絵師についての経歴ははっきりしませんが、その画風から江戸時代後期の狩野派に属する人と思われ、絵の技量は高いものです。

（町指定重要文化財）

60 吾妻山大権現額（若宮・上町）

文政七年（1824）に吾妻山の遙拝所として建てられた銅屋の額で、聖護院宮一品盈仁親王の御染筆によるものです。

その後遙拝所は荒廃したため、現在は酸川野若宮八幡神社に天狗二面と共に大切に保管されています。

（町指定重要文化財）

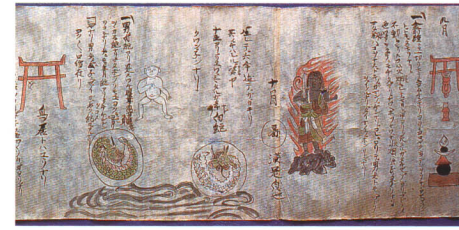
坂上是則「みよしのの山の白雪つもるらし　ふるさとさむくなりまさるなり」(古今・巻六)
源　宗千「ときはなる松のみどりも春くれば　今ひとしほの色まさりけり」(古今・巻一)
小野小町「色見えでうつろふ物は世中の　人の心の花にぞ有りける」(古今・巻一五)
在原業平「世中にたえてさくらのなかりせば　春の心はのどけからまし」(古今・巻一)

61 旧修験榊原家所蔵修験資料（八幡・小原）

近世の当地方における修験資料で、仏像・仏画・護摩用具・修験の衣・袈裟・秘法集・版木・印類・幣束など225点が指定されています。同家はもともと本山派修験（天台系聖護院派）にて大蔵山金剛院円通寺と称し、古くは吾妻山を修行の場とし、飯豊山や出羽三山にも出かけていたといいます。家の奥座敷（祈願道場）には壇が設られ、不動明王を中心に大日如来（金剛界）・薬師如来・日光・月光などの諸仏を祀り、護摩壇もほぼ完全に残っていて江戸時代の地域信仰の面影をよくとどめています。

（県指定重要有形民俗文化財）

祈願道場


『葬具巻一』